（様式第８号）

長野県みらい基金　信州の特色ある学びを実践する事業・団体助成プログラム
助成対象事業実績報告書

R8 年　4 月　20 日

公益財団法人
　長野県みらい基金　理事長　様

申請者　所在地　長野県下伊那郡泰阜村 6342-2

団体名　NPO 法人グリーンウッド自然体験教育センター

代表者　職・氏名　代表理事　齋藤　新

印は不要です

「長野県みらいベース」において当団体が掲載した「信州の特色ある学びを実践する事業・団体助成プログラム」について、下記のとおり報告します。

記

１　助成対象事業名
　児童養護施設のこどもたちに「自由なキャンプ」を！

２　助成対象事業の実施期間
　R7 年　4 月　1 日　～　R8 年　3 月　31 日

３　助成対象事業の内容
　児童養護施設一宮学園で暮らす小学生を長野県泰阜村に招待し、こどもが主役となって、食事を作り、プログラムも考えるキャンプ体験を実施する

４　事業の成果
　本年度は小学生 12 名が参加した。4 年目の継続実施により、複数回参加している児童が初参加の児童に声をかけ、活動を後押しする姿が見られた。自然体験の充実に加え、子ども同士の学び合いや支え合いが生まれ、主体性や役割意識の育成につながった点が本年度の大きな成果である。また、施設職員との連携も深まり、子どもの変化を丁寧に共有できる体制が整った。

５　助成対象事業の実施状況を示す書類（添付）
（１）助成対象事業収支計算書
（２）事業の経過又は成果を証する書類
（３）その他参考となる資料

会計報告

1　収入の内訳

費　目	金　額
寄付金	385,000
参加費（一宮学園負担分）	100,000
計	485,000

持続可能な事業とするため、一宮学園様にも一部ご負担をいただいております。
収支差額の89,439円は、来年度の事業運営に加え、一宮学園の職員研修など、こどもたちの学びを支援する取り組みに活用いたします。

2　支出の内訳

科　目	説　明	金　額
企画準備費	キャンプ準備費	100,000
スタッフ人件費	キャンプ運営及び事務人件費	240,000
消耗品費	キャンプ使用物品	11,303
食材費	食材費　（引率スタッフ含む）	22,168
利用料	キャンプ場利用料	2,400
参加者保険代	保険代　（引率スタッフ含む）	4,980
印刷・発送代	報告書印刷代・発送費	14710,
	計	395,561

皆様からの温かいご支援をよろしくお願いいたします

皆さまのご支援により、次年度に向けたクラウドファンディングは12月20日に目標金額を達成（現在119%）し、来年度も児童養護施設のこどもたちを対象としたキャンプを開催する運びとなりました。この達成を力に、キャンプ事業をはじめとする当団体の活動を今後も継続・発展させてまいります。引き続き事業全体へのご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願いいたします。

○　寄付の方法

団体に対しての寄付も募集しております。いただいた寄付金はこどもや青年向け事業の活動資金として活用いたします。
また寄付いただいた皆様には年間報告書を送付します。

①　同封の振込用紙にて寄付
②　QR コードから寄付サイトにて寄付

※グリーンウッドは認定 NPO ではないため寄付控除は受けられません。あらかじめご了承ください。

○　古本・不要なブランド品で応援

お家で不要になった古本や着なくなった服、眠っているブランド品の買い取り代金がそのままグリーンウッド寄付になります。（送料無料）

古本買取
チャリボン
(by バリューブックス)

洋服やブランド品
Brand Pledge
(by　Brandia)

○　通常寄付

月５００円からのマンスリー会員など少額寄付も受け付けております。

Syncable

NPO 法人グリーンウッド自然体験教育センター
〒399-1801　長野県下伊那郡泰阜村 6342-2
TEL:0260-25-2851/Mail:info@greenwood.or.jp
HP:www.greenwood.or.jp

NPO GREENWOOD
児童養護施設のこどもたちに「自由なキャンプ」を！

2025
事業報告書









◎　開催情報
実施日：2025 年 8 月 22 日（金）～ 24 日（日）2 泊 3 日

◎　参加人数　16 名 内訳
小学 4 年生　3 名　　小学 5 年生　5 名
小学 6 年生　2 名　　中学 1 年生　2 名
引率スタッフ 4 名

○　こどもたちの声

皆さまからのご寄付のおかげで12名のこどもたちにキャンプの体験を提供することができました。こどもたちが書いた想い出作文を一部抜粋してご紹介いたします。

キャンプファイヤーと川遊びが楽しかったです。飛び込みは１回しかできなかったので、また挑戦したいです。肝試しでは驚かす役をやりましたが、驚かされる役も楽しそうだと思いました。来年も行けたら行きたいです。（小５）

１日目の夜の肝試しは、すごく怖かったけれど面白かったです。川にダイブできたのもうれしかったです。
キャンプファイヤーではゲームをしたり、火をつけるところがかっこよかったです。朝は少し寒かったけれど、みんなでごはん作りができて楽しかったです。帰るときは「帰りたくない」と思ったので、来年も来たいです。（小４）

山賊キャンプでは、いろいろなことに挑戦しました。工作では、コップや杖を作りました。ごはん作りでは、いつもは大人がやってくれることを、自分たちでやることができて、とても良い体験になりました。川遊びも楽しかったです。夜は星がきれいだったそうですが、外が少し苦手だったので、テントで寝ました。今回もとても楽しかったので、次も参加したいです。（中１）

キャンプ場に着いてカレーを食べ、みんなで考えた肝試しをしました。このキャンプでは時間を見ることができず、不思議な気持ちになりました。
２日目の朝は、みんなで協力して朝ごはんを作り、火おこしを担当しました。
川では滝行に挑戦し、去年より長く耐えることができました。

川遊びがとても楽しかったです。友だちと滝に行ったり、魚釣りをしたりしました。魚はいましたが、捕まえることはできませんでした。夜はキャンプファイヤーをして、寝る前にきれいな流れ星を見ることができました。（小４）

１日目の夜に、みんなで肝試しをしました。うまく驚かせることができた人もいれば、全然驚かない人もいて、とても盛り上がりました。
２日目は川遊びで、ダイビングをしたり、魚をとったりしました。
夜はキャンプファイヤーで、王様ゲームや文字あてゲームをして楽しかったです。
山賊キャンプに来て、団結や友情を少しずつ築くことができたと思います。（中１）

午前は１日目の夜ごはんはカレーでした。とてもおいしかったです。夜には肝試しをして、びっくりしたけど少し楽しかったです。流れ星は見られなくて少し悲しかったですが、空にはたくさんの星があってうれしかったです。
２日目は川遊びで、高いところから飛び込みました。最初はとても怖かったけれど、やってみたら楽しくて、またやりたいと思いました。（小６）

特に楽しかったのは、怪談話と川遊び、キャンプファイヤーです。川遊びでは飛び込みに挑戦しました。最初は迷いましたが、やってみるととても楽しかったです。怪談話は話し方がリアルで、とてもびっくりしました。去年より大変でしたが、今年も楽しいキャンプでした。（小６）

長野キャンプで特に楽しみだったのは、川遊びと火おこしです。去年はできなかったので、今年は挑戦できてうれしかったです。一番おいしかったのはカレーライスです。外で食べたので、いつもよりおいしく感じました。料理では、ニンジンとピーマンを切りました。とてもおいしく作れてうれしかったです。また来年も参加したいです。（小４）

初めて長野のキャンプに行きました。肝試しはあまり怖くなかったけれど、誰かの声にびっくりしました。
夜はクモやバッタが出て、なかなか寝られませんでした。
でも、友だちと一緒に流れ星を見ることができて、うれしかったです。（小５）

１日目の夜の肝試しは、すごく怖かったけれど面白かったです。川にダイブできたのもうれしかったです。
キャンプファイヤーではゲームをしたり、火をつけるところがかっこよかったです。朝は少し寒かったけれど、みんなでごはん作りができて楽しかったです。帰るときは「帰りたくない」と思ったので、来年も来たいです。（小４）

竹で釣り竿を作ったり、川で遊んだり、ごはん作りをしたりしました。川の水は冷たくて慣れるまで時間がかかりましたが、滝に打たれたり水をかけ合ったりして楽しかったです。夜は外で寝て、たくさんの星を見ることができました。（小５）

○　職員インタビュー

こどもたちが暮らす一宮学園のことや、キャンプに参加した際のこどもの様子を職員の若林越麿さんに伺いました。

一宮学園はどんな施設ですか？

一宮学園には、大きく分けて二つの生活のかたちがあります。ひとつは、複数の宿舎が集まる本園。もうひとつは、地域の中に点在する分園です。こどもたちは昼間、地元の学校へ通い、放課後になるとそれぞれの宿舎へ帰ってきます。
宿舎では、およそ６人のこどもたちが一緒に暮らしています。未就学児から高校生まで年齢はさまざまで、男女別ではありますが、あえて異なる年齢のこどもたちが同じ空間で生活する「縦割り」の環境をつくっています。

年齢だけで分けてしまうと、人間関係はどうしても固定化しがちです。年上が年下を気にかけ、年下は年上の姿から学ぶ。そうした多様な関係性の中で、自然と寛容さや思いやりが育まれていくと感じています。この日々の積み重ねが、こどもたちが将来、社会へ踏み出す際の大切な土台になると考えています。

今回の山賊キャンプに参加しようと思ったきっかけや、参加前に抱いていたイメージを教えてください。

私は地域に出ている分園で働いており、普段は本園との関わりがあまりありません。だからこそ、今回のキャンプは、職員やこどもたちを知る良い機会になると感じました。

前職では登山やキャンプなど、自然に関わる活動をしていたこともあり、「自分にもできるだろう」と少し軽く考えていた部分がありました。しかし、実際に参加してみると、原始的なスタイルで行う２泊３日のキャンプは初めてで、想像以上に大変でした。一日中動き回る生活は、体力的にも精神的にも予想以上で、「楽しそう」という気持ちだけでは語れない気づきがたくさんありました。

どんなことが印象に残りましたか？

まず驚いたのは、こどもたちの体力です。日中ずっと活動していて、大人のほうがついていけなくなるほどでした。こどもたちは、大人が思っている以上に、自然の中で力を発揮できる存在なのだと実感しました。

また、児童養護施設が小規模化している今だからこそ、「みんなで参加する」ことの意味についても考えさせられました。家庭に近づくことは大切ですが、集団だからこそ生まれる良さも確かにあります。最終日に少しふてくされてしまった子がいたとき、周囲のこどもたちの中から自然と「みんなで呼びに行こう」という声が上がりました。集団の中だからこそ生まれる関わりが、こども同士の関係を深めていくのだと思いました。

こどもたちの姿で、特に心に残った場面はありますか？

一番印象に残っているのは、こどもたちが本当に主体的に動いていたことです。普段は自由に過ごしている子が、自分で役割を見つけ、分担し、協力しながら行動する。「やらされている」雰囲気はまったくなく、「こんなにできるんだ」と心から驚かされました。

自分の意思で「行きたい」と手を挙げて参加しているからこそ、あれほど積極的に動けるのだと思います。家庭的養育や個別化が重視される中で、行事や集団で動くことの価値について、改めて考えるきっかけになりました。

キャンプは、こどもたちにどんな影響を与えていると思いますか？

一番大きいのは、「楽しい」という気持ちです。楽しんだ分だけ学びを持ち帰っているのではないでしょうか。

劇的な変化があるわけではありませんが、日常の中で自然とキャンプの話が出てくることがあります。それだけ心に残る、深い経験だったのだと思います。また、何度も参加している子は、これまでの経験を土台に自信を持って行動し、自然と周りをリードする姿も見られました。

印象的だったのは、キャンプ後、分園で働く私が本園を訪れたとき、こどもが肩を組んで話しかけてくれたことです。「顔を知っている人がいるだけで、こんなにも距離が縮まるんだ」と感じました。キャンプで生まれた関係性や経験は、日常に戻ってからも確かに続いている。そのことを強く実感しています。



担当ディレクター
岡田くるみ（くる）

夕方に集合したこどもたちは、長旅の疲れもあり少し緊張した様子でしたが、みんなで机を囲んで「山賊カレー」を食べる頃には、次第に笑顔と元気が戻ってきました。夜に行った山賊会議では、川遊びや魚とり、工作、野宿、星空観察、肝試し、キャンプファイヤーなど、やりたいことが次々とあがりました。初日の夜から肝試しに挑戦し、２日目は一日中川で遊び、夜はキャンプファイヤーを楽しみました。最終日の朝も散歩に出かけ、最後まで思いきり自然を満喫しました。食事づくりや身の回りの仕事にも進んで取り組み、役割を担い協力する楽しさを感じている様子でした。短い二泊三日でしたが、日頃から信頼関係のある仲間や職員と過ごしたことで、挑戦する姿や成長が随所に見られました。このキャンプで得た「まずはやってみよう」と挑戦する気持ちを、日常の中でも生かしていってほしいと願っています。







関連ブログ記事
▶開催レポート